

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-148271

(43)Date of publication of application : 13.06.1995

(51)Int.Cl.

A61M 39/02

(21)Application number : 05-321198

(71)Applicant : JMS CO LTD

(22)Date of filing : 26.11.1993

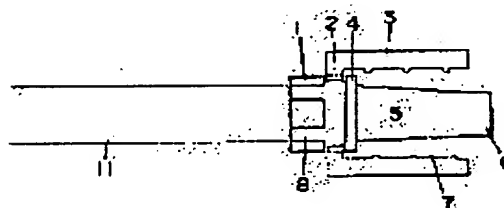
(72)Inventor : SE CHIYOKUSHIN
TADOKORO HIDEKI
MATSUDA TAKASHI
NAKANO HITOMI

(54) LOCK TYPE CONNECTOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a connector for medical treatment which functions as a slip type connector or lock type connector by making a lock nut part attachable and detachable to and from a first attachment and detachment preventive part of a male lure part.

CONSTITUTION: Ribs 1 are installed at plural points vertically in parallel with liquid flow to a base end side 8 of the male lure 5. Groove-shaped parts 2 of the plural points corresponding to these ribs 1 are formed near the lock nut part 3 in contact with the base end side 8 of the male lure part. Another ribs 4 are installed at the center near the front end in the male lure part 5 to prevent the dislodgment of the lock nut part 3 from the front end side of the male lure part. Engagement is executed by engaging the thread groove parts 7 on the inner side at the front end of the lock nut part 3 and projecting parts engageable with the screw groove parts of a female connector. The lock nut part 3 is disengaged by sliding this part to the base end side 8 of the male lure part 5 and the connection of the male lure part 5 and the male connector is used as a slip type joint when the engagement by screwing is inadequate or when the shapes, etc., of both are inadequate for joining.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

24.11.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3456241

[Date of registration]

01.08.2003

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-148271

(43) 公開日 平成7年(1995)6月13日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 M 39/02

A 6 1 M 5/ 14

4 5 9 D

審査請求 未請求 請求項の数10 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平5-321198

(22) 出願日 平成5年(1993)11月26日

(71) 出願人 000153030

株式会社ジェイ・エム・エス

広島県広島市中区加古町12番17号

(72) 発明者 施 直心

広島県広島市中区加古町12番17号 株式会

社日本メディカル・サブライ内

(72) 発明者 田所 英記

広島県広島市中区加古町12番17号 株式会

社日本メディカル・サブライ内

(72) 発明者 松田 貴志

広島県広島市中区加古町12番17号 株式会

社日本メディカル・サブライ内

(74) 代理人 弁理士 川島 利和

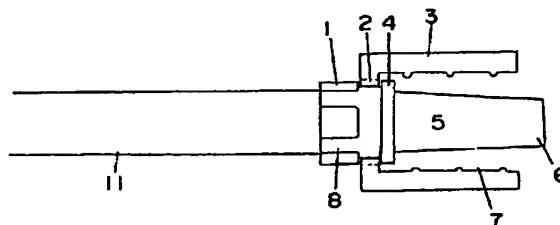
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ロック型接続具

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 結合すべき医療用具の種類などにより、スリップ型の接続機能が必要な場合はスリップ型コネクタとして機能し、またロック型の接続機能が必要な場合はロック型コネクタとして機能する接続具、とくに医療用接続具の提供。

【構成】 基端側および基端側前方の外周面状にロックナット脱着防止部1 (以下、前者の脱着防止部を第一脱着防止部、後者の脱着防止部を第二脱着防止部と云う) を有する雄ルアー部分5と、ロックナット部分3が前記雄ルアーに嵌装されているロック型接続具において、前記ロックナット部分が雄ルアー部の第一脱着防止部より脱離が可能な構造であることを特徴とするロック型接続具、該ロック型接続具とスリップ型の接続およびロック型の接続が可能な形状を有する雌コネクタ9よりなる接続具セット及びこれらを用いた医療用接続具セット。



【請求項１】 基端側および基端側前方の外周面状にロックナット脱着防止部（以下、前者の脱着防止部を第一脱着防止部、後者の脱着防止部を第二脱着防止部と云う）を有する雄ルアー部分と、ロックナット部分が前記雄ルアー部分に嵌装されているロック型接続具において、前記ロックナット部分が雄ルアー部分の第一脱着防止部より脱離が可能な構造であることを特徴とするロック型接続具。

10

30

[0 0 0 1]

〔従来技術〕生体に薬液等を輸注したり、輸血を実施する場合、また手術等で血液体外循環を行う場合、導管（ライン）に他の器具を接続して使用する機会はきわめて多い。輸液の長時間の静脈確保のためには、通常使用

される静脈針を翼状針に付け替える必要があり、また輸液セットのチューブ長さが不足した場合は、延長チューブを接続しなくてはならない。さらに他の薬液を混注する必要がある場合には、チューブに三方活栓を結合したラインを構成しなくてはならない。これらの目的のため、一般的には接続具（コネクター）には2種類のタイプがあり、1つの種類のものは、スリップ型と呼ばれるテーバーのついた雄、雌のコネクターであり、嵌合のみにより結合が行われるものである。別の種類のものは、ロック型と呼ばれるネジ接続部を持つ雄、雌のコネクターであり、コネクター同士を嵌合させた後、雄コネクターに嵌装しているロックナット部分を雄コネクター縁部に螺合させることによってロックされるものである。しかしながら、同じ接続部位において、ロックナット型コネクター機能とスリップ型コネクター機能の使い分けを必要とする場合が少なくないが、従来はこのような機能を十分に満足するコネクターは知られていなかったの
で、このような機能を要求される場合であっても、やむをえず前記両型のうちの1種類のコネクターを選択して使用していたが、種々の問題を生じてきた。たとえば、ロック型コネクターを他の医療用具と接続する場合には、螺合すべき部材の規格によって医療用具の結合部が形状的及び／又は材質的に規定され、選択できる医療用具の種類が限定されるという欠点がある。また、結合した医療用具の付け替えの必要性が予測される場合、特に短時間のうちに付け替えの必要性が予測される場合、スタッフに付け替えのために不必要な時間と手間をかけさせるだけではなく、緊急時には速やかに医療用具の付け替えを要求されるが、このような要求に対処することができない。一方、スリップ型コネクターを他の医療用具と接続する場合には、該コネクターの結合力は弱いため、たとえば、接続部の確実な結合を要求される場合、あるいは長時間の結合を必要とする医療用途には不向きであり、あえて使用しても結合力が不十分なために起因して、離脱、漏液等の恐れがあった。

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、結合すべき医療用具の種類などにより、スリップ型の接続機能が必要な場合はスリップ型コネクタとして機能し、またロック型の接続機能が必要な場合はロック型コネクタとして機能する接続具、とくに医療用接続具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】本発明は、基端側および基端側前方の外周面状にロックナット脱着防止部（以下、前者の脱着防止部を第一脱着防止部、後者の脱着防止部を第二脱着防止部と云う）を有する雄ルアー部分と、ロックナット部分が前記雄ルアー部分に嵌装されているロック型接続具において、前記ロックナット部分を、雄ルアー部分の基端側より脱離が可能な構造なもの

とすることにより前記従来技術の課題を解決した。ロックナット部分が雄ルアー部分の基端側より脱離が可能であるロックナット部分の構造としては、例えばロックナット部分の後方部分に雄ルアー部分の第一脱着防止部が嵌入でき、かつスライドにより雄ルアー部分から脱離が可能な溝状部を設けたものが挙げられる。前記雄ルアー部分のロックナット脱着防止部すなわち第一脱着防止部および第二脱着防止部としては、突起部例えば軸方向に平行なリブ状の突起物が挙げられる。前記のようなロック型接続具は、そのロックナット部分の内側に嵌入が可能で、かつロック型接続具の雄ルアー部分がその先端側より嵌入が可能な雌コネクター、すなわち、前記ロック型接続具とスリップ型の接続およびロック型の接続が可能な雌コネクターと接続して用いることができる。したがって、前記ロック型接続具の雄ルアー部分は、雌コネクターに容易に嵌入することができるように、その先端がテーパー状のものが好ましい。また、第一脱着防止部と第二脱着防止部の距離は、ロックナット部分の遊びが実質的に存在しない距離であることが好ましい。このような距離を採用することにより、ロックナット部分のネジ溝部を係合した雌コネクターの突起部分から解放するため回転させると同時に雄ルアー部分と雌コネクターのスリップ型の接続も容易に解除することが出来る。さらに、ロック型接続具のロックナット部分として、先頭部分の内側にネジ溝部を設けたものを使用し、雌コネクターとしては、前記ロックナット部分のネジ溝部に係合可能な突起部をその外周面状に有したものを使用して、ロック型接続具と雌コネクターをネジ接合することにより両者を強固に接合することができる。本発明の接続具の雄ルアー部分基端部に付設された第一脱着防止部をロックナット部分の溝状部と適合させた時、雄ルアー部分に嵌装していたロックナット部分を該ルアー部分の基端側にスライドして脱離することが可能となり、またロックナット部分の溝状部と雄ルアー部分基端部の第一脱着防止部を適合させることにより、脱離したロックナット部分を雄ルアーに再び嵌装することもできる。このように本発明の接続具は、必要に応じて雄ルアー部分とロックナット部分との脱離が可能となり、その結果該接続具をスリップ型コネクターにも、ロック型コネクターにも使い分けすることが可能となる。本発明のロック型接続具としては、雄ルアー部分基端部の後方部分に任意の長さの柔軟なチューブ、例えば軟質樹脂のチューブを接合し、該チューブの末端部分に前記雌コネクターを接合したチューブ結合ロック型接続具も本発明の好ましい態様である。このようなチューブ結合ロック型接続具は、コネクター同士を接合するに際し、スリップ型およびロック型接続を使い分けて複数本のチューブを簡単に結合することが出来る。さらに前記チューブ結合ロック型接続具の雌コネクターには、ロック型接続具の雄ルアー部分より脱離したロックナット部分の脱離を防止する構造を

設けて、該ロックナット部分のチューブおよび雌コネクターからの脱離を防止することが出来る。このロックナット部分の脱離防止は、例えば前記雌コネクターにリブ状の突起物を設けるか、あるいは前記雌コネクターの後方部分をロックナット部分を嵌合係止できる構造とすること、例えば雌コネクターの後方部分に溝を形成することにより行うことが出来る。前記のようにロックナット部分を雌コネクター嵌合係止させることにより、脱離したロックナット部分が紛失したりすることがなく、またスリップ型接続を行う場合に邪魔にならない。前記のようなロック型接続具および該ロック型接続具と雌コネクターよりなる接続具セットは、特に医療用として有用であり、たとえば輸液セットと延長チューブ、輸液セットと三方活栓、輸液セットと翼状針等の接続等に使用できるが、医療用に限定されるものではない。

【0005】次に本発明の具体的な構成を実施例に基づいて説明するが、本発明は以下の実施例のものに限定されない。

【実施例】図1には、本発明のロック型接続具の1実施例を示す。図1には雄ルアー部分5に嵌装したロックナット部分3と、雄ルアー部分5が図示されている。該雄ルアー5の基端側8には、液流と平行に上下に数箇所の第一脱着部に相当するリブ1が付設されており、またロックナット部分3の雄ルアー部分の基端側8との接触部近傍に前記リブ1に対応する数箇所の溝状部2が形成されている。図2にロックナット部分3の後方部分の軸方向からの断面図を示す。前記雄ルアー部分5の中央部先端寄りには第二脱着防止部に相当する別のリブ4が付設され、ロックナット部分の雄ルアー部分先端側からの脱着を防止している。このロック型接続具は、図4に示すような雌コネクター9、たとえば医療用具の雌コネクターと接合される。該結合は、ロックナット部分3の先頭部の内側のネジ溝部7と雌コネクター9の前記ネジ溝部に係合可能な突起部10とを係合して行われるが、このネジ係合が不適合の場合または両者の形状、大きさ等が接合に不適合な場合、或は一時的な結合で十分な場合は、ロックナット部分3を雄ルアー部分5の基端側8にスライドし脱離させ、雄ルアー部分5と雌コネクターの接続を単なるスリップ型接合のみとして使用する。脱離したロックナット部分3は、図3に示すようにロック型接続具の後方部分に接合した接合軟質樹脂のチューブの末端部に接合している雌コネクター9の方向に移動させ、該雌コネクター9と嵌合係止させる。また確実な接続、或は長時間に亘る結合が必要な場合はロックナット部分3を雄ルアー部分5に嵌装したまま、雄ルアー部分5と雌コネクター9を嵌合した後、ロックナット部分3のネジ溝部2を雌コネクター9の縁部に設けた突起部10と螺合させて雄コネクターと雌コネクターとの接続をより確実なものとして行うことができる。図4は本発明のロック型接続具をロック型コネクターとして接続したものであ

5

り、該コネクタの雄ルアー部分5を雌コネクタ9に嵌合した後にロックナット部分3を雌コネクタ9の突起部10と螺合させて接続した図である。図5は本発明のロック型接続部材をスリップ型接続として接続したものであり、ロックナット部分3を、該ロックナットの溝状部2と雄ルアー部分5のリブ1と適合させて、雄ルアー基端側にスライドし、脱離させた後、雄コネクタと雌コネクタを嵌合させた図である。

【0006】

【発明の効果】本発明のロック型接続部材は、ひとつの接続部材で螺合によるロック型接続と嵌合のみによるスリップ型接続の2通りの方法で使うことが可能となる。また、本発明のロック型接続部材は、ロック型接続を解除すると、スリップ型接続も同時に、かつ容易に解除する事が出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のロック型接続具の1態様の断面図である。

【図2】本発明のロック型接続具のロックナット部分3の後方部分の軸方向からの断面図である。

【図3】本発明のロック型接続具から脱離させたロック*

*ナット部分3をロック型接続具の後方部分に接合した接合軟質樹脂のチューブの末端部に接合している雌コネクタ9の方向に移動させた状態を示す図である。

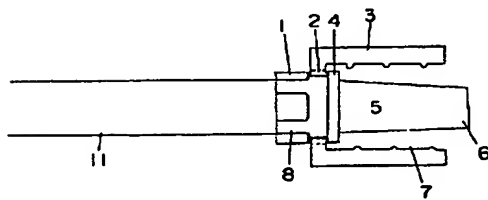
【図4】本発明のロック型接続具をロック型コネクタとして雌コネクタと接続した状態を示す部分断面図である。

【図5】本発明のロック型接続具をスリップ型コネクタとして雌コネクタと接続した状態を示す断面図である。

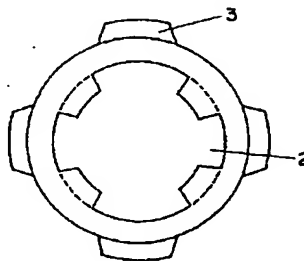
10 【符号の説明】

- 1 ロックナット脱着防止部（第一脱着防止部）
- 2 溝部
- 3 ロックナット部分
- 4 ロックナット脱着防止部（第二脱着防止部）
- 5 雄ルアー部分
- 6 雄ルアー部分先端側
- 7 溝状部
- 8 雄ルアー部分基端側
- 9 雌コネクタ
- 10 ロックナット部分のネジ溝部に係合可能な突起部
- 11 軟質樹脂チューブ

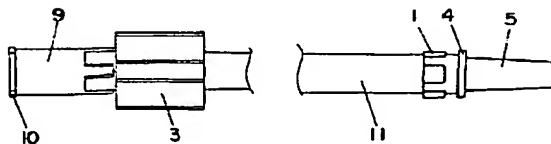
【図1】



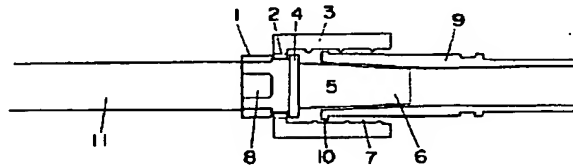
【図2】



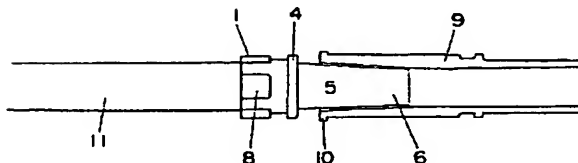
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 中野 仁美
広島県広島市中区加古町12番17号 株式会
社日本メディカル・サブライ内